

ら は た 訪 探 史 クラブ 其の61

TAHARA
History Inquiry
Club

渥美半島に
人が暮らし始めたころ

発掘調査では、わずかではありま
すが土器が発見されました。今から
1万2000年前、土器が発明され
た直後のもので、県内でも最古級の
土器となります。
土という、自由に形を変えること
ができ、やり直し可能な素材を使う
ことによって、人々が物を創造する
感性は大きく変わったに違いありま
せん。そして、この土器が宮西遺跡
で使われていたことには大きな意義
があります。

これまでは硬く、また、渋くて食
べることができなかった食料が、煮
炊きするなど、加熱加工することに
よって、柔らかく、アクなども除去
できるようになりました。これは、
食品リストの増加につながりまし
た。また、殺菌効果もあるため、衛
生面も大きく改善されました。こ
のような状況から、宮西遺跡に暮ら
していた人々は、特定の食料を頼つて
遊動生活をする必要がなくなったの
です。

老人や子どもたちが強いられてき
た遊動生活での負担は、定住するこ
とによって軽くなりました。現在の
ような記録媒体を持たない当時、知
識や技術の情報は人によって伝えら
れるものでした。そのため、経験豊
富な老人が長生きするということは
大きな財産でしたし、縄文文化の発
展に大きく寄与したといわれています。
また、子どもは種族の繁栄にも
つながり、新しい文化の創造には欠
かせない存在でした。

森・海の資源を有効に活用するた
め、縄文人は定住できる家を作り、
複数の家族と集落を作ります。定住
するためにはさまざまな社会の「き
まり」を作る必要があります。例
えば、衛生面を確保するために、ト



さいりょうきせんもんどきへん
県内最古級の土器「細隆起線文土器片」

イレやゴミ捨て場の設定をしたり、
資源の取り過ぎを規制したりしまし
た。そして、人々は社会を精神的に
安定させるため、さまざまなマツリ
を行い、心がひとつになるように工
夫していたのです。

宮西遺跡では、その後も人々が生
活していた痕跡がわずかながら見ら
れるものの、草創期ほど盛んなもの
ではありません。宮西遺跡の人たち
はどこへ行ったのでしょうか。

実は宮西遺跡に限らず、渥美半島
内でもその後の人々の暮らしの跡は
わずかししか見つかっていません。再
び大規模な生活の跡が確認できるの



びりょうきせんもんどきへん
「微隆起線文土器片」

は、縄文時代後期終わり（3500
年前）に作られた「貝塚遺跡」
からなのです。遊動生活からやっ
と安住の地を定めはじめたにもかか
らずなぜ…。

気候や火山の噴火など、新たな環
境の変化によるものなのか、また、
新しい文化の到来など、生活環境の
変化によるものなのか、理由はわか
りません。しかし、私たちの祖先が
環境にしたたかに適応し、共存しな
がらこの渥美半島で生き抜いてきた
ことは確かです。（増山）

文化財課 23局35331